

景況見通し調査

【調査概要】

- 調査目的／管内の小規模事業所の短期的な景況動向を把握するため、年4回実施。
- 調査時期／平成19年9月21日～26日
- 調査方法／FAXにより送付、回収
- 調査対象／福井商工会議所会員小規模事業所約2,500件
- 回答企業／303社(回答率12.1%)
- 【内訳】製造業59社／建設業81社／卸・小売業79社／サービス・その他70社／不明14社

D-I値とは…デフュージョンインデックス (Diffusion Index) の略で、景況動向を示す指標。「良」増加「好転」したとする企業割合から、「悪い」減少「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

調査結果概要

今回の調査では「自社の景況感」売上の状況「採算の状況」など、多くの指標で前回調査よりも改善の傾向が見られ、小規模事業所の景況感は厳しいながらも下げ止まりの傾向が見られる。業種別には「製造業」に回復の兆しが見られ、製造業が調査全体の数値

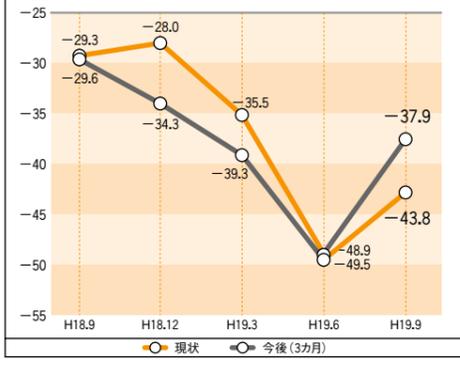
を引き上げる結果となった。その理由としては、受注の増加、もしくは受注が安定していることを挙げている。

なお、今回の調査では、近年、利用が進む外部人材の利用状況について聞いた。結果は「今後利用を検討する」の回答を含めて、約4割が外部人材の利用を進めている。利用の理由は「仕事量の変動に対応するため」が最も多く、業種別では「建設業」が最も積極的である結果となった。

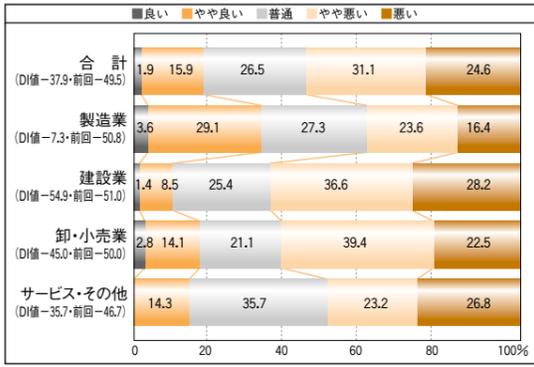
自社の景況

自社の景況をみると、下げ止まり傾向がより鮮明となった。特に「今後3

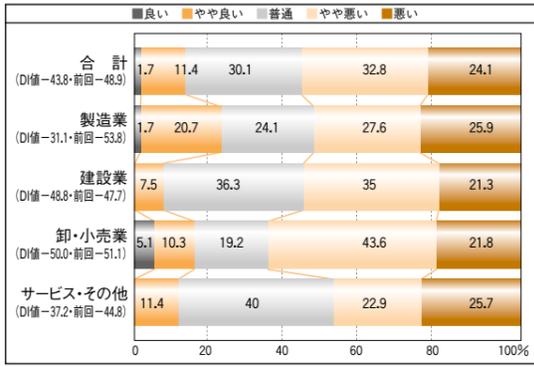
自社景況DI値の推移



3カ月後の自社の景況(業種別)



自社の景況(業種別)

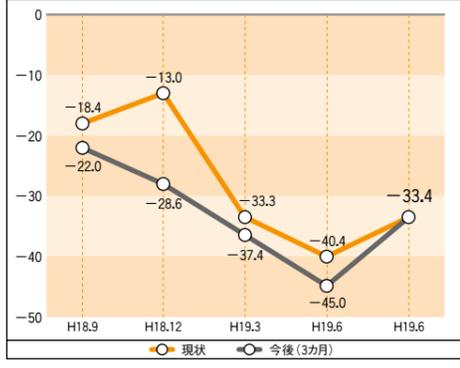


ヶ月の予想「D-I値は『現状』の値を大きく上回り、先行きに明るさを感じている企業が増えているようである。業種別では『製造業』に回復の兆しが見られ、特に「3カ月後の予想」ではD-I値がマイナス一桁台と大幅に明るい見通しをしている。一方で『建設業』『卸・小売業』ではD-I値が40～50台と厳しい状況が続いている。

売上(受注)高

売上(受注)高についても下げ止まり傾向が読み取れ、『現状』および『今後の予想』とも前回調査より上昇している。業種別に見ると、『現状』の売上では『卸・小売業』以外の業種で前回よりも好転しており、特に『建設業』の回復が目立つ。『今後3ヶ月の売上予想』

売上DI値の推移

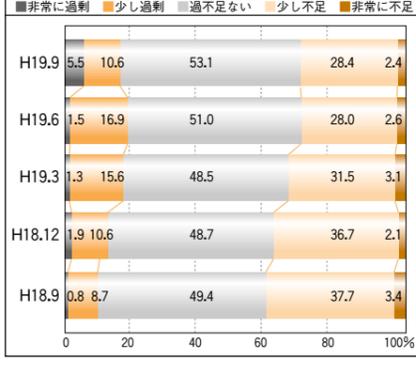


では全ての業種でD-I値が前回を上回っており、特に『製造業』の回復ぶりが際立っている。

労働力の過不足感

前回調査に比べて『過剰』(非常に過剰『少し過剰』)とする回答が若干減少し、逆に『不足』(『少し不足』『非常に不足』)との回答がわずかながら増加した。業種別には『建設業』で『過剰』『不足』が共に多くなっており、労働力のミスマッチが大きいといえよう。

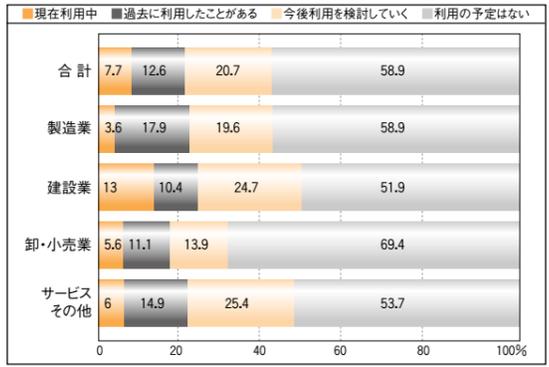
労働力の過不足感



外部人材の活用状況

近年、自社以外の外部人材の活用が進んでいるが、小規模事業所における活用状況を尋ねた。『現在利用中』『過去に利用したことがある』とした企業が

外部人材の活用状況(業種別)



20.3%と現時点での利用は決して多くない。しかし『今後利用を検討』する企業も20.7%あり、これらをあわせると約4割の企業で外部人材の活用を進めている。業種別には『建設業』で最も多く外部人材の活用を進めており、今後の利用についても積極的である。これは受注の変化に合わせて、『外注』の利用が一般化しているためと思われる。一方で、『卸・小売業』では現状の活用状況、今後の活用意欲ともに低い。また、外部人材活用理由については、『仕事量の変動に対応するため』との回答が最も多く、以下『人件費を抑えるため』『自社では人材確保が困難なため』と続いた。